



写真1 草を食むヤク



写真2 角の無いヤク



写真4 小型で丈夫な四姑娘山の馬



写真3 尻尾を立てた壁画のヤク

四姑娘山の彼方此方で草を食むヤク(高山牛) **写真1**が見られますが、10年位前から様相が違って来ています。以前はヤクが荷物や人を乗せて運び畑を耕していました。そして今よりずっと大きく体毛の長いヤクが殆どで、近づくのが怖い位でした。しかし1990年代後半から観光客やその荷物を載せるために馬が導入され始め、扱い易いことから今ではヤクに取って代わりました。

そしてヤクはもっぱら肉にされたり乳を搾るために飼われ、畑を耕す事も稀になりました。そのため平地の牛の血が混じって小型化したり体毛が短くなったヤクが増えています。目の周りが白いパンダ顔のヤクが増えたのも最近の傾向です。

ヤクは皆大きな角を持っていると思われ勝ちですが、中には遺伝的に角の無いヤクが居ます。

**写真2**は鍋庄坪の稜線の踏み跡道を辿って麓の家から山上の放牧小屋へ届け物をする角の無いヤクです。写真のヤクも皆さんが見た放牧されているヤクも尻尾が垂れ下がっていたと思いますが、ある種の興奮状態になると稀に尻尾を立てます。

残念ながら尻尾を立てたヤクを写真ではお見せできませんが、古代から継承されている神様が乗るヤクの壁画で見ることが出来ます(**写真3**)。

四姑娘山の馬(**写真4、5**)は小型ですが頑丈で、荷物や人を乗せて険しい山道に行くには適しています。平地で飼われている馬と違って四姑娘山の馬は岩がゴロゴロした道や急な斜面を登れます。しかしそれでもヤクには適いません。ヤクならば荷物を運べた高所でも馬では運べず、荷揚げに支障が出ています。また村の若いチベット人は扱い易い馬に慣れ、気性が荒いヤクを扱えなくなっています。何処の世界でも楽になると後戻り出来なくなるようです



写真5 草を食む四姑娘山の馬

◎すでに掲載された「写真便り」はこちらにあります  
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/ookawasan/essej-title.html>

◎大川さんのホームページはこちら  
 ■ <http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>  
 ■ <http://kawamoto1940.web.fc2.com/>  
 ■ <http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvally.htm>

